

2022年(令和4年)

赤目まちづくり委員会・市民センター



10月号

赤目まちづくり通信

発行/赤目まちづくり委員会(赤目市民センター) 〒518-0465名張市赤目町丈六238-1

E-mail: akame-ko@emachi-nabari.jp

TEL&FAX: 63-0329

森嶋・山路・藤村各部長あいさつ・抱負

健康福祉部 部長 森嶋秀和

昨年に引き続き、健康福祉部長をお引き受けしました、柏原区の森嶋秀和(もりしま ひでかず)です。

今年度もテーマは、昨年同様に『エンジョイ・ライフ・プロジェクト(ELP)』とし、健康な身体で人生を最後まで楽しみましょう。と言う事で、市民センターでの「健康講座」「身体測定」、各地区への出向いての「出前健康教室」を計画していますが、コロナ禍のため全て中止となっています。

高齢化が進む中、少しでも健康に興味を持ち家の中に閉じこもりがちな高齢者には、外に出ていく楽しみ、たくさんの人とのふれあう楽しさを感じてもらえるような企画を考えていきたいと思っています。

行事が再開できるようになった折には、皆様方の御参加・ご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

区長会部 部長 山路憲一

厳しい暑さも終わり、やっと秋の涼しさを感じる季節になりました。当赤目地区では稲刈りもほぼ終わり、皆様方にはお元気に過ごされていることと思います。

さて、今年度も6か月が過ぎましたが、昨年に続き区長会部部長をお引き受けすることとなりました相楽区長の山路憲一(やまじけんいち)と申します。私は赤目で生まれ、23歳まで地元で育ち、20年近く東京で勤務した後、地元に戻り、何も地元のことがわからないまま相楽区長を引き受け6年目になりました。年齢と区長経験が長いだけではありますが、昨年からは区長会部の部長を務めさせていただいています。

区長会部としましては、「安心安全」のまちづくりの推進、少子高齢化が進む中、民生・児童委員と連携して地域支えあい事業、健康づくり事業の推進を目指しています。残念ながら過去2年間はコロナウイルスの影響によりほとんどの行事が縮小、または中止になり、今年も同様に半年が過ぎてしまいました。コロナウイルスの終息が見通せず、2年間と同様の状態が続いています。今年度も残り6か月になりましたが、この豊かな自然と観光資源を生かして魅力ある赤目の地域づくりを目指して頑張りたいと思いますので、皆様方のご支援、ご協力をよろしくお願い致します。

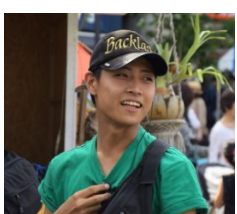
民生・児童委員会部 藤村純子

本年度より民生委員・児童委員が全員まちづくりの理事となりました。この事から民生・児童委員会部が新たに出来ました。民生・児童委員は、まちづくり6つの部会のいずれかに所属し活動をしています。民生・児童委員会部では、区長さんと共に高齢者のための事業に取り組んでいます。

コロナ禍のため、本年も「高齢者一人暮らしのつどい」を中止させていただく事になりました。ご了承とご理解をお願いします。また年末に予定しています「歳末訪問」は計画通り実施させていただきます。

現在の民生委員・児童委員は、11月30日をもって任期が終了します。継続していただく方もいますが、10人中6人が退任いたします。12月1日から新しいメンバーでの活動になりますが、今まで同様よろしくお願い致します。民生・児童委員会部からのあいさつといたします。

赤目地域の住民皆様のご健康とご長寿を願い、更なるご協力とご支援をよろしくお願い致します。



地域おこし協力隊・川崎氏着任

神奈川県横浜市から来ました、川崎智哉(かわさきともや)です。10月より赤目の自然と歴史に惹かれ、地域おこし協力隊として着任しました。赤目の魅力を届ける仕事を頂けて幸せです。また見かけた際は、お気軽に声を掛けて下さい。

秋の花粉症に注意…。

花粉症と云えば春のイメージがありますが、実は秋にも原因となる花粉は飛んでいます。主な原因は、空き地などに繁殖する雑草ブタクサやヨモギ、カモガヤが代表的です。

秋は気温が下がり、乾燥するため風邪の原因となるウィルスの活動が活発になって風邪が流行り始めます。くしゃみや鼻水が出ると、多くの方は「風邪かな?」と思うかもしれませんが花粉症の可能性もあります。くしゃみや鼻水、目の痒みなどの症状が続いている場合は、病院で診察を受けるようにしましょう。

また対策として、マスクや花粉症用メガネの着用、花粉の付着しにくい素材の服を着る、帰宅後の手洗い・うがい、空気清浄機の利用などの対策が有効です。

バランスのよい食事を取り、体をしっかり動かし、十分な睡眠をとって免疫力を低下させない生活習慣を整える事が大切です。 まちの保健室より ☎63-1381

名張高校・美術専攻部の生徒さん来訪

9月9日名張高校美術科とのコラボにより、赤目竹あかりのPR並びにデザイン化を進める為、市民センター・作業場に11名の生徒さんが来訪。授業の一環として、「赤目竹あかり」をブランド化・ロゴ制作などデザイン化(造形化)のために、顧問の山口先生と共に。吉田センター長・倉坂部長、観光交流室坂元さんより説明・紹介がありました。



錦生赤目小学校2・3年生来訪

秋空の下、「町たんけん」で錦生赤目小学校の2年生(9/15)・3年生(9/28)各26名のお友だちが赤目市民センターに来られました。

大会議室で、吉田センター長より説明を聞いた後、各部屋を探検。研修室でサークルさんの体操・忍たま広場、あんしねっと赤目・まちの保健室、多目的ホールで卓球、工芸室のコーヒーサロンを見学し楽しい時間を過ごしました。最後にセンター前で記念写真を。



9月よりA4(白黒)コピー5円に。詳細は、市民センターまで。

名張市指定ゴミ袋取扱、紙おむつ専用ごみ袋(無料交付)

特大 45リットル 10枚 480円・大 30リットル 10枚 300円・中 20リットル 10枚 180円・小 10リットル 10枚 80円
紙おむつ専用ごみ袋は、対象者一人当たり30枚以内。

赤目まちづくり委員会
赤目市民センター
ホームページ



赤目まちづくり委員会・市民センターの情報がホームページでご覧いただけます。
※スマホ・携帯電話で左のQRコードを読み取って下さい。

子供も大人も、参加自由

10月3日～10月31日までの予定

赤目町の皆さまへ

赤目市民センター
センター長 吉田 好文

令和4年度(第38回)

赤目市民センターまつり

今年の第38回赤目市民センターまつりは、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、展示のみの開催と致します。つきましては、ご多忙とは存じますが、ぜひご観覧下さいませ。なお「竹あかり」の展示・実演も予定、「隠学歴史講座」10/29(土)10時併設開催します。



月	火	水	木	金	土	日
10/3	4	5	6 大野市役所来訪	7	8	9
10 スポーツの日	11	12 ふれあいサロン	13	14	15	16 赤目歴史散策
17	18 料理教室	19	20 サンサンカレー	21	22 赤目滝竹あかり ライトアップ(2023.1/31まで)→	23
24 /31	25 	26 ふれあいサロン 忍たま広場	27	28	29 市民センター まつり(10/31まで)	30

<注意> 11月に予定していましたが、「ひとり暮らし高齢者の集い」、「みんなの運動会」、「館外学習会(延期)」は、中止になりました。

- ・開催日 10月29日(土)～10月31日(月) 3日間
- ・場所 赤目市民センター 多目的ホール
- ・開催時間 午前9時～午後3時まで

併設 <赤目市民センター 隠学歴史講座>

10月29日(土)10時より 大会議室(定員30名限定)

「赤目の今と昔」の講演

講師 山口 浩司氏(名張市立図書館館長)



※健康状態や体調を十分に考慮したうえで、マスク着用でご参加ください。

詳細は、市民センター電話 63-0329 まで、お申し込みください。

11月の行事予定

- ★11/2(水)ひとり暮らし高齢者の集い(中止)
- ★11/4(金)市議会議員報告会 大会議室 19時より
- ★11/9(水)ふれあいサロン
- ★11/11(金)市民センター消火・避難訓練
- ★11/13(日)ガン検診 センター大会議室 9時より
詳しくは、チラシをご覧ください。
- ★11/16(水)忍たま広場
- ★11/19(土)名張市防災訓練
- ★11/20(日)赤目秋まつり
- ★11/23(水)ふれあいサロン(中止)
- ★11/26(土)・27(日)凧づくり(予定)

※赤目市民センターでは、コロナ対策として、検温・マスク着用・消毒・換気、名簿の作成など、3密(密集・密接・密閉)を避けて運営しています。しかしながら状況に応じ、中止・延期になる場合がありますので、ご注意お願い致します。

Vol.33 新・歴史散策紀行…「伊賀・赤目文化遺産」(各区・地域の名所・名品を募集しています。)

「赤目のむかし話 Part.3」

第三作は、赤目の各地域・地区に関わるお話を。

檀の弁天さん(檀)

役小角(えんのおづぬ)が赤目滝の山で修行しておったときのことじゃ。赤目一帯は日でもり続きで農作物がとれず、村人たちは大そう困っておったそう。小角は何とか助けてやりたいと思っとな、山を下り高善山(竜神山)のふもとにけがれの無い清浄の地を捜して草庵を建て、七重の、ひときわ高い『檀』を造ってお祈りをしてたそう。

すると高善山の東のふもとを流れている小川の岩の上に「明星の王子」が降り立った。

「役小角よ。お前の修法は立派である。村民の苦しみを救おうとするその心意気に秘法をさずけようぞ。」小角は不思議な力を与えられて、五十七日間の修行をつんだあと、また不思議なことがおこったそう。紫の雲に乗った弁天さんが役小角の前に降りて来て「密呪秘印」を伝え、また雲に乗って姿を消した。

そんなことがあって次の年は農作物にとってちょうど良い時に雨が降り、かつてないほどの大豊作になった。村人たちはたいへんな喜びようで、小角に感謝するとともに弁天さまのおかげでやと考えた。そこで、小角が祈っていた檀の東方の丘の印之木山に弁財天女をおまつりすることになったんやわ。毎年二月六日の祭りには、やく払いの人々や店も出て大変なにぎわいじゃったがいつしか等身大の「弁天さん」は行方知れずになってしまった。

役小角が七重の檀を設けた土地は「檀」、星の天子が川に降りたこ

とからその辺りを「星川」というようになったんやと。<話・桐本一男さん 大正1(1912)年生まれ>

うみ石(柏原)

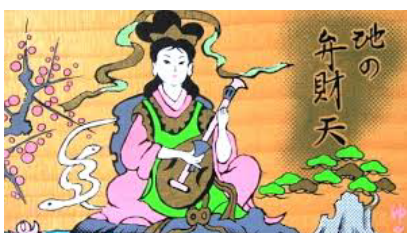
昔、柏原に「九兵衛」という人が住んでおった。毎月一度、はるばると伊勢神宮まで歩いて参っていたそうやわ。ところがな、そのうち年老いてきたので歩いて行くことがえらくなってしまった。そこで、最後のお参りの時、伊勢神宮の宮司に頼んだそうや。

「月参りももうこの年では足がいうことを聞いてくれまへん。お伊勢はんの石を一つだけもらえまへんやろか。」真剣に頼む九兵衛に宮司は、「石を持って帰ってどうなさるのじゃ。」不思議そうにたずねた。「へい、その石をお伊勢はんとして、毎日おがみますのや。」「なるほど…。おまえさまが気に入った。石を持って帰りなされ。」宮司はこころよく承知してくれたので、九兵衛は境内の白い丸い小石を持ち帰ってきましたんや。

その日から、九兵衛は小石を毎日のようにおがんでいたそうやが、ある日、石が持ち帰ってきた時より大きくなっていることに気づいてびっくりした。「もしかしたらこの石、生きてるとちゃうやろか。」九兵衛は首をかしげるばかり。それから石はな、どんどん大きくなっていったそう。今では、その大きくなった石をこの村の勝手神社に納めてあるんやわ。<話・久保義一さん 明治41(1908)年生まれ>



役小角



弁天さん



流星群



伊勢神宮



神宮玉砂利



柏原勝手神社